

市町村名		読谷村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	危険生物駆除事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア 「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進	
担当部署	総務部 生活環境課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)	
事業内容	これまで近隣市町村でのみ捕獲された攻撃性の高いタイワンハブの捕獲事例が本村でも発生しており、その蔓延を防ぐためにも早期の駆除活動の強化が必要である。来村する観光客や行楽客、そして村民をハブ咬症から守るため、捕獲器を設置し継続的なハブの捕獲、駆除により個体数を減らすことで、より安全な観光地を目指す。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 A. 計(b+d)	(a)当初予算額	4,519	3,210	3,210	3,169	4,098
		(b)予算現額	3,619	1,925	1,925	2,750	3,520
		(c)増減額(b-a)	▲ 900	▲ 1,285	▲ 1,285	▲ 419	▲ 578
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	3,619	1,925	1,925	2,750	3,520
	B. 執行済額		3,619	1,925	1,925	2,750	3,520
	うち交付金充当額		2,895	1,540	1,540	2,200	2,816
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。指名競争入札による入札残分を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	観光地周辺を含む村内各地に、ハブ捕獲器300器設置		目標 (設置)	(設置)	(設置)	(設置)	
			実績	設置完了	設置完了	設置完了	
	定期巡回・管理の実施及び処分餌用マウスの飼育(繁殖)管理 危険周知看板100枚の管理		目標 (18回)	(15回)	(15回)	(管理)	
		実績	17.9回	16.6回	14.9回 管理実施		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 令和6年4月中旬に委託業務を発注し、ハブ捕獲器300器を設置した。 捕獲するためのエサとなるマウスを飼育し、設置期間における3週間を目的に巡回・捕獲器の管理を行った。 危険周知看板の維持管理を行い、観光客及び村民への啓発に繋げた。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:0件		目標 (0件)	(0件)	(0件)	(0件)	()
			実績	4件	0件	2件	
			目標 ()	(-)	(-)	(-)	()
			実績				
進捗状況説明		前年度と比較すると捕獲数は増加している。咬傷被害件数は2件であった。 令和6年度:ハブ類69匹 その他へび類26匹 計95匹 令和5年度:ハブ類38匹 その他へび類15匹 計53匹					

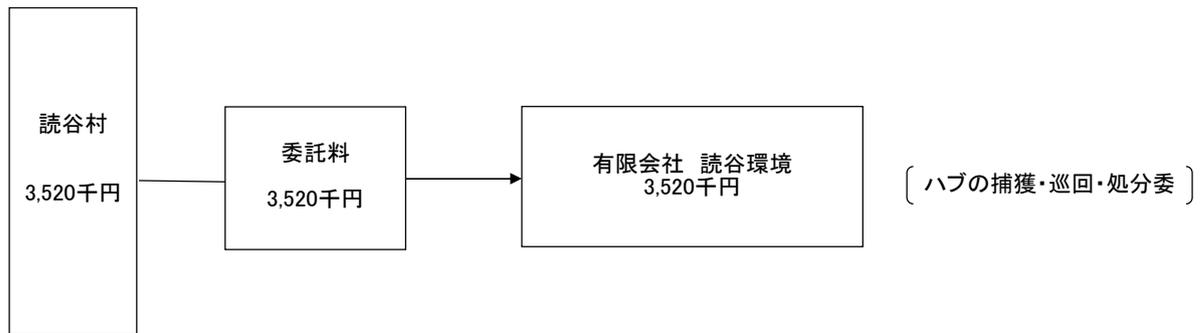
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:2件) ・契約期間外における咬傷被害防止や個体数増加抑制のため、毎年度早期着手が必要と考える。 ・今年度の咬傷被害が2件であった。今後は咬傷被害0を目指していくためにも引き続き、注意喚起看板の徹底管理を行い、歩行者等へ周知していくことが必要である。	(村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:2件) ・年度当初からの着手を目指し、早期の業者選定、入札執行を図る。 ・事業の概要や読谷村におけるハブ被害の現状について、村HPやFMラジオを通しての周知をさらに高める。 ・エリア毎の捕獲実績数を鑑み、設置箇所及び設置数の再検討を行う。

今後の取り組み方針

(村内におけるハブによる観光客や村民の咬傷被害数:2件)
 ・年度当初に早期着手し、ハブ等の活動が活発になる前に捕獲器を設置し、危険性の除去向上に努める。
 ・村のHPや広報誌、FMラジオを活用し、村民及び観光客に対し、危険生物であるハブへの注意喚起を行い、事業の理解と協力を得るために、更なる広報活動を行う。
 ・捕獲器の設置及び注意喚起看板の維持管理を行う。定期的な捕獲数の検証を行い、設置箇所の改善等の検討を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,520	3,520	2,816	704	



資金の流 点、検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札方式により決定した。県内実績を勘案し選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模として不用額は、全て入札残であり、適正な規模であった。 ○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

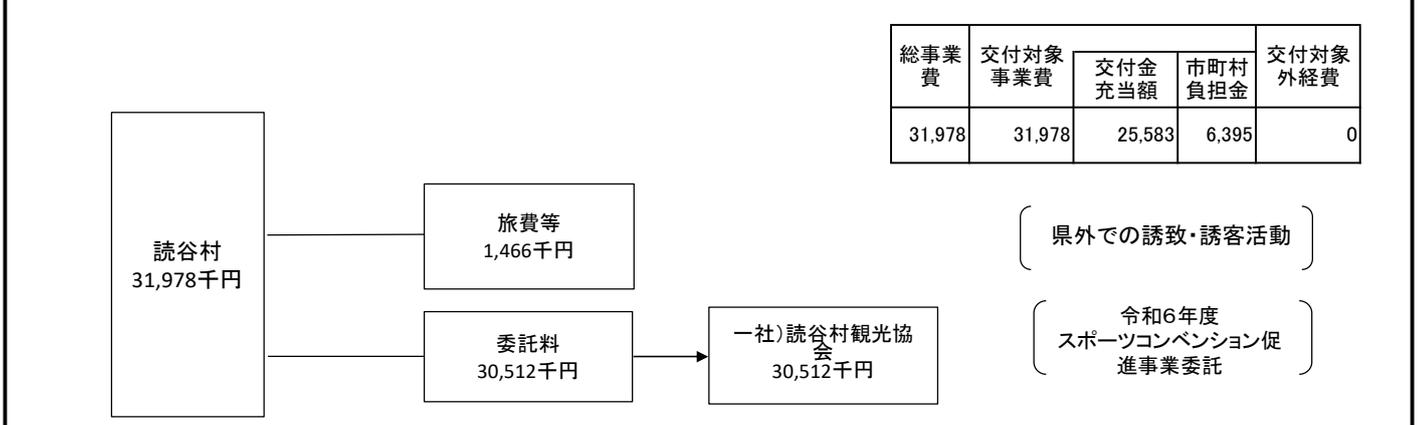
市町村名		読谷村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	読谷村スポーツコンベンション促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア		
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和7年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	スポーツキャンプ等の誘致を促進し、地域への波及効果を高める取り組みを行う。キャンプチーム本拠地等でファン層に向けた観光・物産(特産品)PRを実施し、観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算総額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A. 計(b+d)		16,278	13,012	25,585	39,216	35,818
			3,920	7,112	25,585	34,073	32,208
			▲ 12,358	▲ 5,900	0	▲ 5,143	▲ 3,610
			3,920	7,112	25,585	34,073	32,208
	B. 執行済額		3,920	5,882	20,690	31,587	31,978
	うち交付金充当額		3,136	4,706	16,552	25,269	25,583
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	82.7%	80.9%	92.7%	99.3%
	予算の状況の説明		概ね計画通りに事業を執行することができた。				
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	各種スポーツキャンプ等誘致活動	目標	(2回)	(3回)	(3回)	(3回)	
		実績	2回	3回	5回	6回	
	キーパーソン招へい	目標		(2団体以上)	(2団体以上)	(2団体以上)	
		実績		3団体	2団体	1団体	
	実証キャンプ支援	目標		(2団体以上)	(2団体以上)		
		実績		2団体	2団体		
	キャンプチーム本拠地等での観光誘客活動	目標	(3回)	(3回)	(3回)	(3回)	
		実績	3回	3回	3回	6回	
キャンプ期間中の集客イベントの実施	目標	(実施)	(実施)	(1回以上)	(1回以上)		
	実績	実施	実施	1回	1回		
受入体制強化・協議会運営	目標			(実施)	(実施)		
	実績			実施	実施		
スポーツコンベンション経済波及効果調査の実施	目標			(実施)			
	実績			実施			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・6回の誘致活動を実施。トップセールスによる複数競技団体を訪問するなどキャンプ実施に繋がる活動となった。また、大規模なスポーツ総合展示会へも出展し、キャンプ地読谷村を全国へPRした。 ・6回の誘客活動を実施。新規の誘客活動を積極的に展開した。 ・春季キャンプ時期の村内における観光誘客イベントを計画し実施した。 ・新規競技を誘致するための、キーパーソン招聘を行い、村内の施設・環境を評価いただいた。 						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)	基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)	
	スポーツコンベンション受入件数	目標	()	(15件以上)	(18件以上)	(18件以上)	()
		実績		15件	16件	16件	
	県外誘客イベントPR観客数	目標	()	(10,000人以上)	(18,000人以上)	(18,000人以上)	()
		実績		87,750人	53,518人	50,768人	
	キャンプ期間中の来場者数	目標	()	(5,000人以上)	(20,000人以上)	(20,000人以上)	()
		実績		18,000人	21,600人	27,000人	
スポーツコンベンション経済波及効果調査の完了	目標	()		(完了)		()	
	実績			完了			
進捗状況説明	<p>・スポーツキャンプ等受入件数について、同一競技種目のキャンプ日程重複やキャンプを予定していたチーム・団体のスケジュール変更により、目標達成には至らなかった。</p> <p>・県外誘客イベントPR観客数については、多くのファンとより密接にコミュニケーションを図ることができた。またPR会場で伝統芸能団の演舞を披露することで、本村の観光・地域資源の認知度向上が図られ目標を達成した。</p> <p>・キャンプ期間中の来場者数について、県外誘客活動や集客イベント実施、積極的な情報発信の効果も相まって、目標を達成することができた。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(スポーツコンベンション受入件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーパーソン招聘を実施したパークゴルフ競技については、現状の施設規模や組織体制では大規模な大会を誘致することが困難であることがわかった。 ・フレスコボール競技については、令和5年度に実証キャンプ、令和6年度に公式戦の大会を村内で初実施した。 <p>(県外誘客イベントPR観客数・キャンプ期間中の来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外誘客活動については、来訪動機を高める新たな取り組みを行い、より効果的な誘客活動を行うことができた。 ・キャンプ期間中の取り組みについては、集客拡大を目的として、キャンプ地間のシャトルバスの運行を行った。 ・キャンプ期間中に、チームとタイアップし、村内周遊スタンプラリーを実施した。 	<p>(スポーツコンベンション受入件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パークゴルフ施設を活用した個人・団体向けのスポーツツーリズム等のコンテンツ造成の可能性が考えられる。 ・フレスコボールの実証キャンプ実施により、読谷村で公式戦の実施に繋げることができた。今後は、ビーチスポーツ競技についても、誘致受入を検討していく。 ・村内施設の有効活用として、年間予約状況等を踏まえ、戦略的な誘致活動を展開していく必要がある。 <p>(県外誘客イベントPR観客数・キャンプ期間中の来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪動機を高める新たな取り組みを行った。今後は、配布場所・部数などを検討して更なる誘客効果に繋がる方法を検証する。 ・キャンプ期間中のシャトルバスについて、アンケート結果を基に、日数や便数の拡大を検討する。 ・村内周遊スタンプラリーについては、一定の経済効果を得られたので、引き続き、より効果的な取り組みを検討する。

今後の取り組み方針
<p>(スポーツコンベンション受入件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度～6年度の間実施したキーパーソン招聘と実証キャンプは、一定の成果を得られた。令和7年度以降においてはこれら事業で誘致・受入をした競技・団体の定着化と今後の展開の可能性を探る。 ・スポーツキャンプ等誘致活動については、これまでの受入実績を維持・向上させるため、引き続き積極的な誘致活動と、施設整備等関係部署との連携を強化していく。 ・県内受入先進地となっているラグビー競技をはじめとした、様々な競技種目についても、沖縄県や他市町村と連携を図り全県的な受入を行うことで、キャンプ地沖縄県の定着化を図る。 <p>(県外誘客イベントPR観客数・キャンプ期間中の来場者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外誘客イベント等により本村の観光・物産のPRを継続するとともに、令和6年度に行った来訪動機につながる取り組みの効果検証を行い、さらなる強化を図る。また、キャンプ受入時の取り組みとして、村内周遊を促進する取り組みも継続して行い、経済波及効果の向上を図る。 ・読谷村スポーツコンベンション受入協議会については、関係団体との情報共有・意見交換・提案等を行う事により、チームと地域との交流を促進し、地域活性化につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



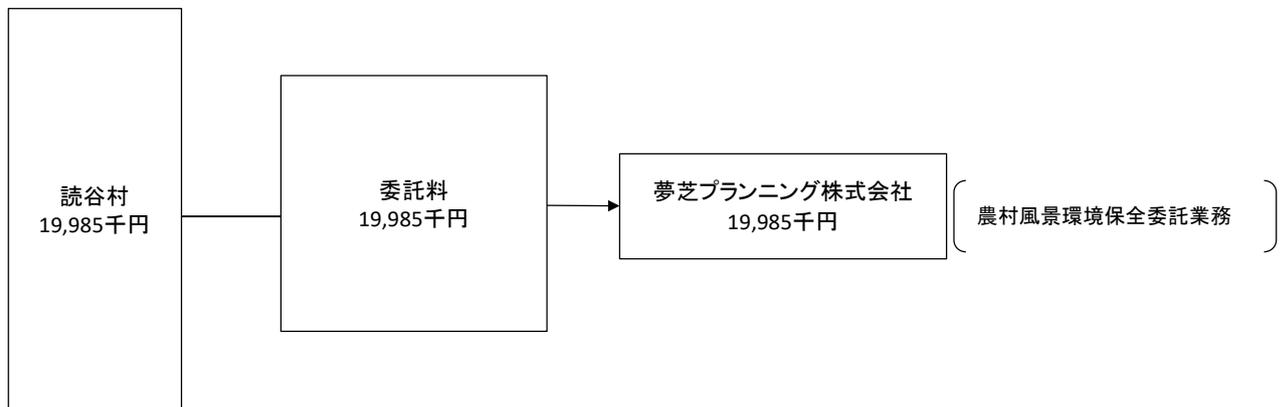
資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第2号を根拠とした業務に精通した者との随意契約としており妥当である。 ○予算規模については、事業目標などは概ね達成されているため適正な予算規模であったと考えられる。 ○費用・使途等については、額の確定時において支出などに関する書類により確認、適正であったと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	農村風景環境保全事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部課名	ゆたさむら推進部 農地活用推進課	事業実施(予定)年度	令和6年度～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	快適で魅力ある観光まちづくりの推進		
事業内容	観光地周辺農道等の除草・清掃・剪定・伐採を行い、本村の魅力ある沖縄らしい農村風景を保全活用することで、快適で魅力ある観光地づくりを図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A. 計(b+d)		19,888				
			19,985				
			97	0	0	0	0
			0				
			19,985	0	0	0	0
		B. 執行済額	19,985				
		うち交付金充当額	15,988				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	予算の状況の説明	事業計画どおり執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	・除草:農道・防風林帯L=4,850m、沈砂池S=7,500㎡ ・清掃:農道・防風林帯L=4,850m、沈砂池S=7,500㎡	目標	(4,850m 7,500㎡)	(-)	(-)	(-)	
		実績	4,850m 7,500㎡	-	-	-	
	・剪定:防風林帯L=3,330m	目標	(3,330m)	(-)	(-)	(-)	
		実績	3,330m	-	-	-	
・伐採:沈砂池3箇所	目標	(3箇所)	(-)	(-)	(-)		
	実績	3箇所	-	-	-		
	達成状況説明	当初の活動目標を達成することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(R5年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値(R9年度)
	農村環境について、観光地としてふさわしい農村風景になっているかについてアンケート等実施。観光地としてふさわしいと回答した割合80%を目標とする。	目標	(-)	(80%)	()	()	()
		実績	/	100%	-	-	/
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績	/	/	/	/	/
		進捗状況説明	事業完了後に、農道利用者や周辺観光施設においてアンケート調査を実施した。19名からの回答を集計した結果、目標である80%以上の方から観光地としてふさわしいとの回答が得られた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	成果目標を上回る結果となったが、対象農道沿いの農地(民有地)で草木が繁茂している箇所がある。	より良い農村風景を維持するため、農地所有者や地元自治会等と連携し、農地の繁茂状況の改善を図る。
今後の取り組み方針		
農地所有者や地元自治会等へ事業の趣旨や目的について理解を求め、必要に応じ繁茂状況の改善について協力・指導等を行う。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
19,985	19,985	15,988	3,997	0



資金の用途の流れ、点検評価・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模について、不用額はなく適正な規模であったと考えている。 ○費目・用途について額の確定時において検査・確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		読谷村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	特別支援教育支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
担当部課名	教育委員会 学校指導課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の变化に対応する魅力ある学校づくりの推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	村立幼稚園、村立小中学校に特別支援を要する幼児・児童生徒の学校生活や学習上の困難を改善するため支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		(a)当初予算額	49,374	50,467	69,307	84,512	116,621
	(b)予算現額	49,283	47,914	58,065	75,442	120,187	
	(c)増減額(b-a)	▲ 91	▲ 2,553	▲ 11,242	▲ 9,070	3,566	
	(d)繰越額						
	A. 計(b+d)	49,283	47,914	58,065	75,442	120,187	
	B. 執行済額	47153	47245	55642	68,646	116,462	
	うち交付金充当額	37721	37796	44513	54,917	93,170	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	95.7%	98.6%	95.8%	91.0%	96.9%	
予算の状況の説明	事業内容を見直し対象経費が増額したため報酬及び旅費2,154千円を増額した。 人事院勧告による給与額改定に伴い給料及び報酬等3,535千円を増額し、執行残が生じたため職員手当2,123千円を減額した。 不用額については、職員の入替や欠員の減額によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	特別教育支援員配置 幼稚園【5園】:5名	目標	(5名)	(5名)	(5名)	(5名)	
		実績	5名	4名	4名	5名	
	特別教育支援員配置 小学校【5校】:10名	目標	(10名)	(10名)	(10名)	(10名)	
		実績	10名	10名	10名	10名	
	特別教育支援員配置 中学校【2校】:4名	目標	(4名)	(4名)	(4名)	(4名)	
実績		4名	4名	4名	4名		
特別支援教育専門指導員 教育委員会:2名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(2名)		
	実績	1名	1名	1名	2名		
【参考指標】 特別支援ヘルパー 幼稚園:12名、小学校6名、中学校:1名	目標	()	(14名)	(19名)	(23名)		
	実績		14名	19名	23名		
達成状況説明	活動目標である特別支援教育支援員、専門員の配置について、概ね計画通り達成できたことで、要支援幼児・児童生徒への支援体制が構築でき、個々に応じたきめ細やかな支援を行うことができた。 また、支援員、ヘルパーの任用時の資格要件の拡充を行ったことで、多様な人材の確保に努めることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	特別支援教育支援員及び特別支援ヘルパーの支援により困難が改善された割合(80%以上)	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		86%	89%	82%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	対象となる幼児・児童生徒の保護者に対し、アンケートを実施した結果、学校生活や学習上の困難が改善されたと回答した割合は82%となった。年間を通じた支援員の配置により、対象者に応じた支援内容と支援体制を構築し、継続した支援を行うことで目標を達成することができた。						

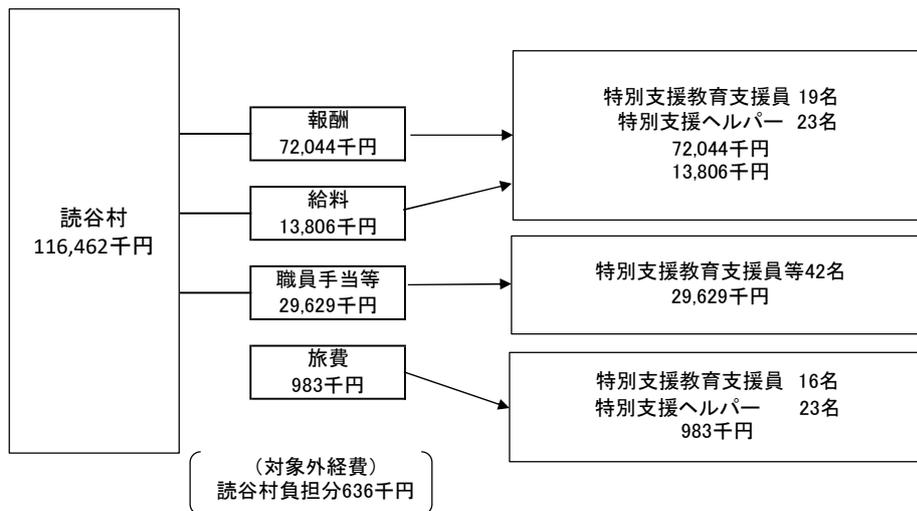
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(特別支援教育支援員及び特別支援ヘルパーの支援により困難が改善された割合(80%以上)) ・支援員を配置することで、対象幼児・児童生徒の個々に応じた支援をすることができた。さらに、特に介助が必要な児童への特別支援ヘルパーを配置することで、対象児童の支援体制の確立することができた。	(特別支援教育支援員の支援により困難が改善された割合(80%以上)) ・障害をもつ幼児・児童生徒が増加していることから現在の支援体制に限界があり、支援員の体制やあり方について検討する必要がある。

今後の取り組み方針

(特別支援教育支援員及び特別支援ヘルパーの支援により困難が改善された割合(80%以上))
・今後も継続的に特別支援教育支援員を配置し、対象幼児・児童生徒への支援を行うとともに、対象者に応じた支援員(特別支援教育支援員、特別支援ヘルパー)の配置を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
117,098	116,462	93,170	23,292	636



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則及び要綱により予算規模を決定しており、適切な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村
------	-----

令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	中学生海外ホームステイ派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育委員会 学校指導課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進 Ⅲ-7		
事業内容	海外での生活や体験を通して、国際的な視野を持つ人材を育成するため、村内在住の中学生を英語圏へ派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,600	3,600	3,600	3,000	8,192
	(b)予算現額	3,300	3,600	3,300	3,000	7,292	
	(c)増減額(b-a)	▲ 300	0	▲ 300	0	▲ 900	
	(d)繰越額						
	A. 計(b+d)	3,300	3,600	3,300	3,000	7,292	
	B. 執行済額	3,300	3,600	3,300	2,427	7,292	
	うち交付金充当額	2,640	2,880	2,640	2,179	5,833	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	80.9%	100.0%	
予算の状況の説明	為替相場の変動により研修費用が減額したことにより、補助金額を減額をした。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)	達成状況					
		H30年度	R1年度	R5年度	R6年度		
	村内在住の中学生を英語圏へ派遣	目標 (12名)	(派遣)	(派遣)	(派遣)		
	実績	12名	11名	6名	派遣実施		
		目標 ()	()	()	()		
実績							
達成状況説明	夏休み期間を利用して、村内在住中学生15名をカリフォルニア州へ派遣し、語学研修や体験学習、ホームステイを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	保護者を対象としたアンケートを実施し、帰国後に国際的な視野が広まったと回答した割合80%以上	目標 ()	(80%)	(80%以上)	(80%以上)	()	
	実績		90%	100%	93%		
	【参考指標】	目標 ()	()	()	()	()	
	実績						
	進捗状況説明	帰国後に派遣した中学生の保護者に対し、アンケートを実施した結果、国際的な視野が広まったと感じた保護者の割合は93%であり、目標を達成することができた。					

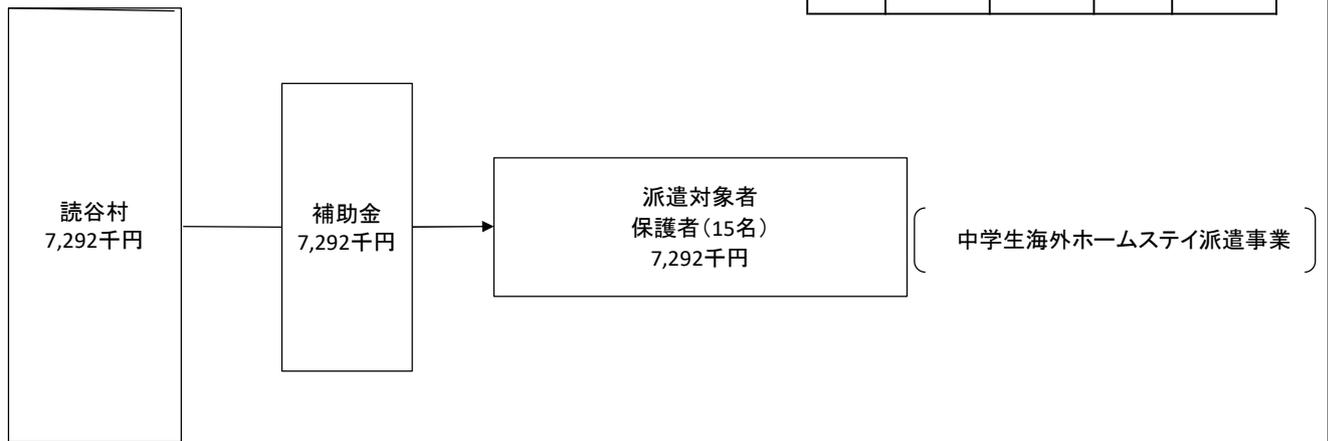
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・参加した生徒達からは「現地の人と積極的にコミュニケーションを取れた。」 「外国の文化などに興味をもった」という声があり、今後も継続的に派遣を行っていきたいが、特に昨今は、国際的な社会情勢等を踏まえて実施していく必要がある。</p>	<p>・旅行会社と保護者と自治体が連携を密に行い、生徒達の安全確保及び情報共有を図っていく。</p>

今後の取り組み方針

・安全性が高く、文化や教育を学ぶに相応しい派遣先を広く検討するとともに、旅行会社と保護者と自治体が連携を密に行い、生徒達の安全確保及び情報共有を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,292	7,292	5,833	1,459	0



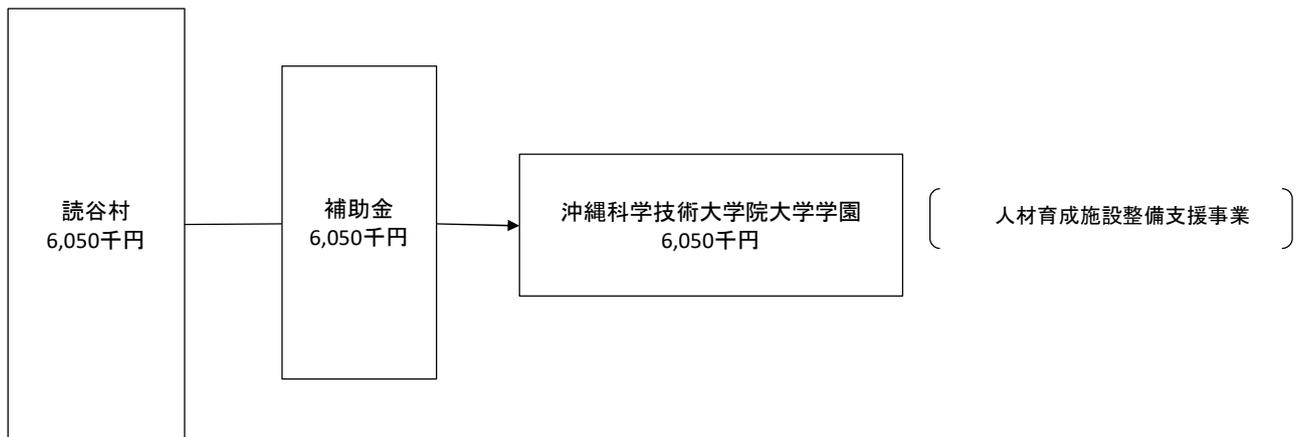
資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣対象となる生徒は、教育委員会で書類及び面接によって公平に選考しており、選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○読谷村における沖縄振興特別推進市町村交付金事業補助金交付規則に基づき予算規模を決定しており、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○派遣対象者の保護者は、事業費の約3割を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか等について支出等に関する書類により確認、適当である。

市町村名	読谷村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	人材育成施設整備支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ		
担当部課名	ゆたさむら推進部 企画政策課	事業実施(予定)年度	令和6年度～令和7年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Society5.0に対する教育の推進 III-3-(2)		
事業内容	本村が「知の拠点」として建築中の(仮称)読谷村総合情報センター内に、科学技術や知識に触れられる場所として、科学探求ゾーンを創設する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和8年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,500				
		(b)予算現額	11,500				
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	0				
		A. 計(b+d)	11,500	0	0	0	0
		B. 執行済額	6,050				
		うち交付金充当額	4,840				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	52.6%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	補助金を交付し設計業務の発注を行った。不用額の5,450千円については入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	人材育成施設整備支援に係る補助	目標	(補助)	()	()	()	
		実績	補助				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	人材育成施設整備支援として、OISTへ補助金を交付し、設計業務の支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値(R8年度)
	補助の完了	目標	()	(補助完了)	()	()	()
		実績		補助完了			
	【R8成果目標】 年間利用者数:10,000人	目標	()	()	()	()	(10,000)
		実績					
進捗状況説明	・補助金を交付し、予定通り成果目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	学内のコンセンサスがスムーズに進んだことから、期間内に達成することができた。	令和7年10月オープンに向けて速やかな補助決定に取り掛かる必要がある。
今後の取り組み方針		
<p>次年度も、(仮称)読谷村総合情報センター内に科学技術や知識に触れられる場所として、科学探求ゾーンの整備に向けて、補助金を交付し、工事監理・工事の支援を行っていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

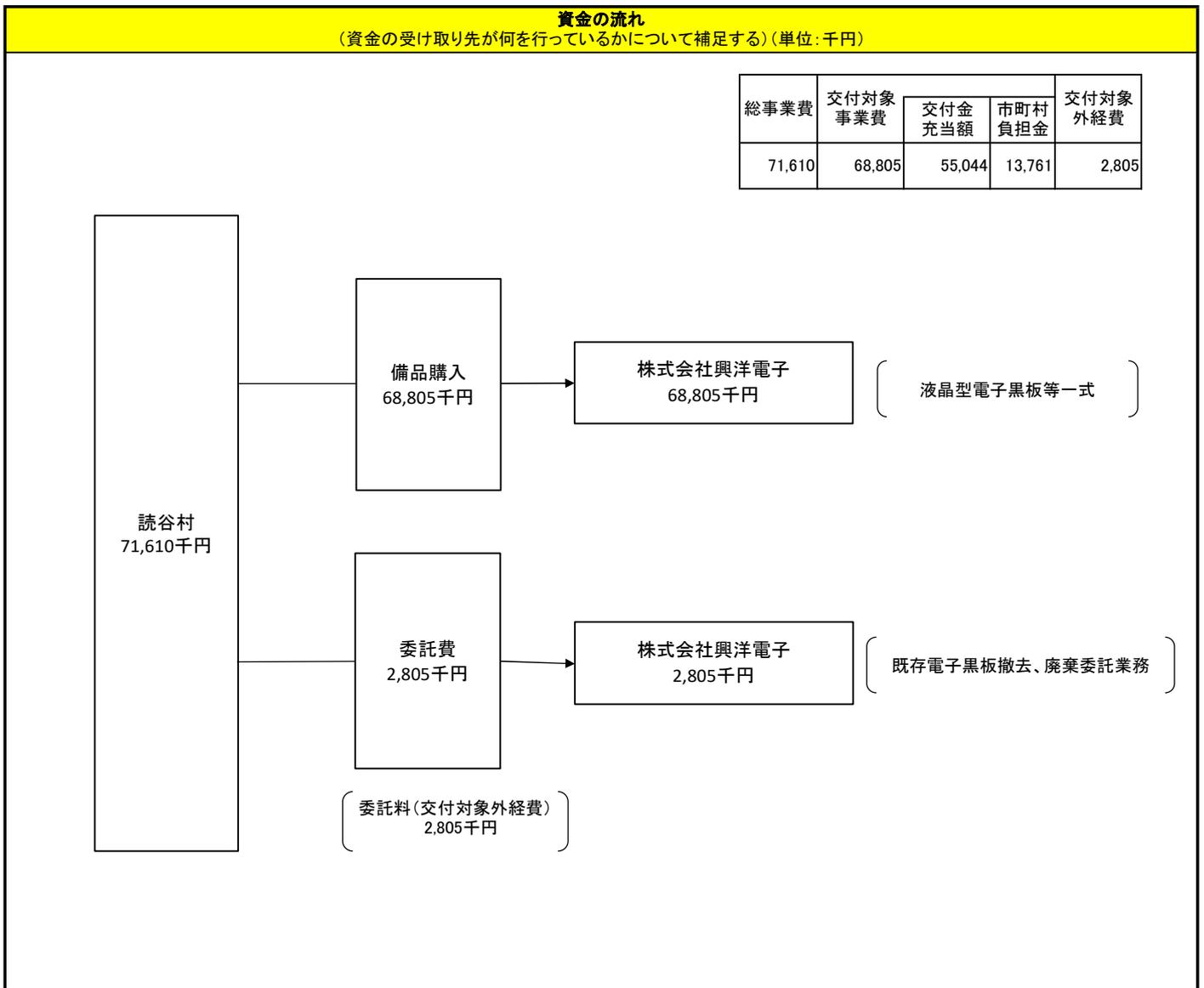
総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,050	6,050	4,840	1,210	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○本村とOISTは人材の育成及び地域の持続的発展に寄与することに努め、地域社会に貢献することを目的とし、包括連携協定を結んでいることからOISTへ支出することは妥当であったと考えている。</p> <p>○入札残による執行残はあったものの、当初計画通りの事業を執行しており、予算規模は適正であった。</p> <p>○受益者であるOISTは、事業内容や負担割合から判断しても妥当であった。</p> <p>○費用、使途については事業目的を達成するために必要なものであったと判断している。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	ICT機能強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ	
担当部署名	教育委員会 学校指導課	事業実施(予定)年度	令和6年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Society5.0に対する教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の学力向上及び情報活用能力の育成環境を整備するため、中学校にICT機器等を整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和7年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	83,441				
		(b)予算現額	68,905				
		(c)増減額(b-a)	▲ 14,536	0	0	0	0
		(d)繰越額	0				
		A. 計(b+d)	68,905	0	0	0	0
	B. 執行済額		68,805				
	うち交付金充当額		55,044				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.9%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初の計画通りに予算を適正に執行できた。 事業費の減額は入札残によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	電子黒板の整備		目標 (2校)	()	()	()	
			実績 2校				
			目標 ()	()	()	()	
達成状況説明		村立2中学校に液晶型電子黒板等を整備を行った。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R7年度)
	児童生徒にアンケート調査を実施し、ICTを活用した授業が分かりやすかったと答えた割合が80%以上		目標 ()	()	()	()	(80%以上)
			実績				
	【参考指標】		目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		令和7年度より活用になるので、本事業の在り方について、アンケートにより検証する。					

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	令和6年度に予定していた村立2中学校への電子黒板の整備をすることができた。	令和7年度より活用になるので、本事業の在り方について、アンケートにより検証する。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末と電子黒板等ICT機器を連携し、ICTを活用した授業を展開し、児童生徒の授業への興味や関心を高め学習の理解を深め分かりやすい授業の展開を図る。 ・令和7年度より活用開始となる為、本事業の在り方について、アンケートにより検証する。 		



資金の用途の流れ、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○落札業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模として不用額は、全て入札残であり、適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		読谷村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	沖縄語(しまくとぅば)保存継承事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及		
事業内容	現在では日常生活で会話することも少なくなった沖縄語の保存継承に寄与するため、身近な生活の中で語られてきた沖縄語をわかりやすく学び、親しむためのデータベースを拡充するとともに、読谷村の沖縄語を体系的にまとめた辞典を発刊する。併せて講座や広報などの普及啓発活動を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,000	7,000	6,500	12,007	15,491
		(b)予算現額	7,170	7,000	6,091	12,833	16,364
		(c)増減額(b-a)	170	0	▲ 409	826	873
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	7,170	7,000	6,091	12,833	16,364
		B. 執行済額	6,892	6,998	5,714	12,807	16,296
		うち交付金充当額	5,512	5,598	4,571	10,245	13,037
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	96.1%	100.0%	93.8%	99.8%	99.6%
	予算の状況の説明	会計年度任用職員1名の出勤日数減(体調不安のため)により、報酬および職員手当634千円を減額した。人事院勧告に伴う会計年度任用職員の報酬および職員手当1507千円を増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	HPへ単語・民話・音声の追加・追記と公開		目標 (実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
			実績	実施	実施	実施	
	辞典作成のための語彙データベースの内容推敲		目標 ()	()	(14,000件以上)	(14,000件以上)	
		実績		14,469件	15,153件		
しまくとぅば講座実施20回数		目標 ()	(20回)	(20回)	(20回)		
		実績	22回	31回	148回		
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・HP(データベース)「読谷村しまくとぅば単語帳」へ語彙の意味・説明の追記・修正15,153件、画像追加128点。 ・読谷村史編集室Youtubeチャンネルにしまくとぅば関連動画(講座等)25本を公開。 ・辞典作成のための語彙の内容推敲(校正)を「ア」～「ン」まで二度目の確認終了。語彙、用例、品詞、説明等追加。 ・しまくとぅば講座のほか、普及啓発活動として展示会(会期約1か月2,269人観覧【ミュージアム】、村立図書館にて2回実施)、村広報誌でのしまくとぅば記事連載(毎月)、コミュニティラジオへの出演(14回)、事業周知のための自治会ヒアリング(12回)、自治会や学校などからの依頼(しまくとぅば訳、講話、読み聞かせ、発表等)、しまくとぅば大会運営サポートを実施。 ・「衣・食・住」に関するしまくとぅば企画展示の資料集及び今年度の講座や普及啓発に関する事業を取りまとめた報告書を作成し、村内学校、自治会、資料保存機関へ配布した。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	HP(データベース)アクセス数		目標 ()	(800回)	(20,000回)	(90,000回)	()
			実績	50,665回	91,351回	135,291回	
	辞典作成のための原稿執筆・確認(※前年度は辞典作成のための必要情報確定(品詞、表記方法など))		目標 ()	()	必要情報確定	原稿執筆・確認	()
			実績		必要情報確定	原稿執筆・確認	
講座総受講者数および満足度		目標 ()	受講者数:550人 講座満足度:80%	受講者数:550人 講座満足度:80%	受講者数:550人 講座満足度:80%	()	
		実績	受講者数:743人 講座満足度:82%	受講者数:701人 講座満足度:86%	受講者数:2,176人 講座満足度:87%		
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度のしまくとぅば関連HPへの総アクセス数は目標値を大きく上回った。 ・辞典作成のための語彙、意味、用例などの追記・修正内容をHP(データベース)にも反映させた。 ・辞典収録語彙の意味、用例など原稿執筆後、有識者への確認(校正)を進める。有識者からの校正内容を修正、反映する。索引作成。 ・小学校、保育園(所)での連続講座実施のため大幅な受講者数増へと繋がった。また通年、村史編集室での幼児・小学生向けのクラブを開催し継続的にしまくとぅばに親しむ環境を構築した。さらには、コミュニティや各団体・機関などと連携した講座なども受講者数を増やす要因となった。実施アンケートでは「講座を受けて良かった」とする高い満足度(87%)が得られた。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(HP(データベース)アクセス数) ・「しまくとぅば単語帳」へのアクセス数が約73,000回、単語帳での検索利用が約50,000回を数え、検索ツールとして活用されていることがわかる。	(HP(データベース)アクセス数) ・HP上のデータベースに音声、用例、画像などのさらなる拡充を行う。 ・体系的な理由から辞典に採用できなかった語彙などもHPデータベース上に反映、追加を行う。
	(辞典作成のための原稿執筆・確認) ・辞典本文の執筆、校正のほか、索引(逆引き)作成も進めた。しまくとぅばをより理解できるよう、辞典内で使用する写真やイラストを約800点選定した。	(講座総受講者数および満足度) ・多大な成果が得られた一方、それを担う会計年度任用職員への負担が増加したため、無理のない適切な事業運営を進めるため職員の増員を図り、量的な成果だけでなく、より受講者の学ぶ意欲を高めるような講座内容を検討していく。 ・前年度課題とした子ども向けの連続講座、しまくとぅばを話す場の構築を意図した連続講座を実施できた。引き続き継続的な講座開催に注力する。
	(講座総受講者数および満足度) ・延受講者は、子ども1,847人、大人329人であり、昨年と比し多くの講座を開催、多数の受講者を得た。地域や学校に直接出向いての趣旨説明が功を奏した。また広報誌連載や地域への呼びかけなどによって、事業の認知が進み、協力依頼や事業連携も進み多大な成果を生むことができた。 ・「もっと学びたい・話したい」とする学ぶ意欲に関しても高い回答(87%)を得ており、講座開催の需要が高いことがわかる。	・講座受講者に中学生や高校生など10代の生徒らが少ない。各学校教員と連携した講座及びその方法なども今後検討していきたい。

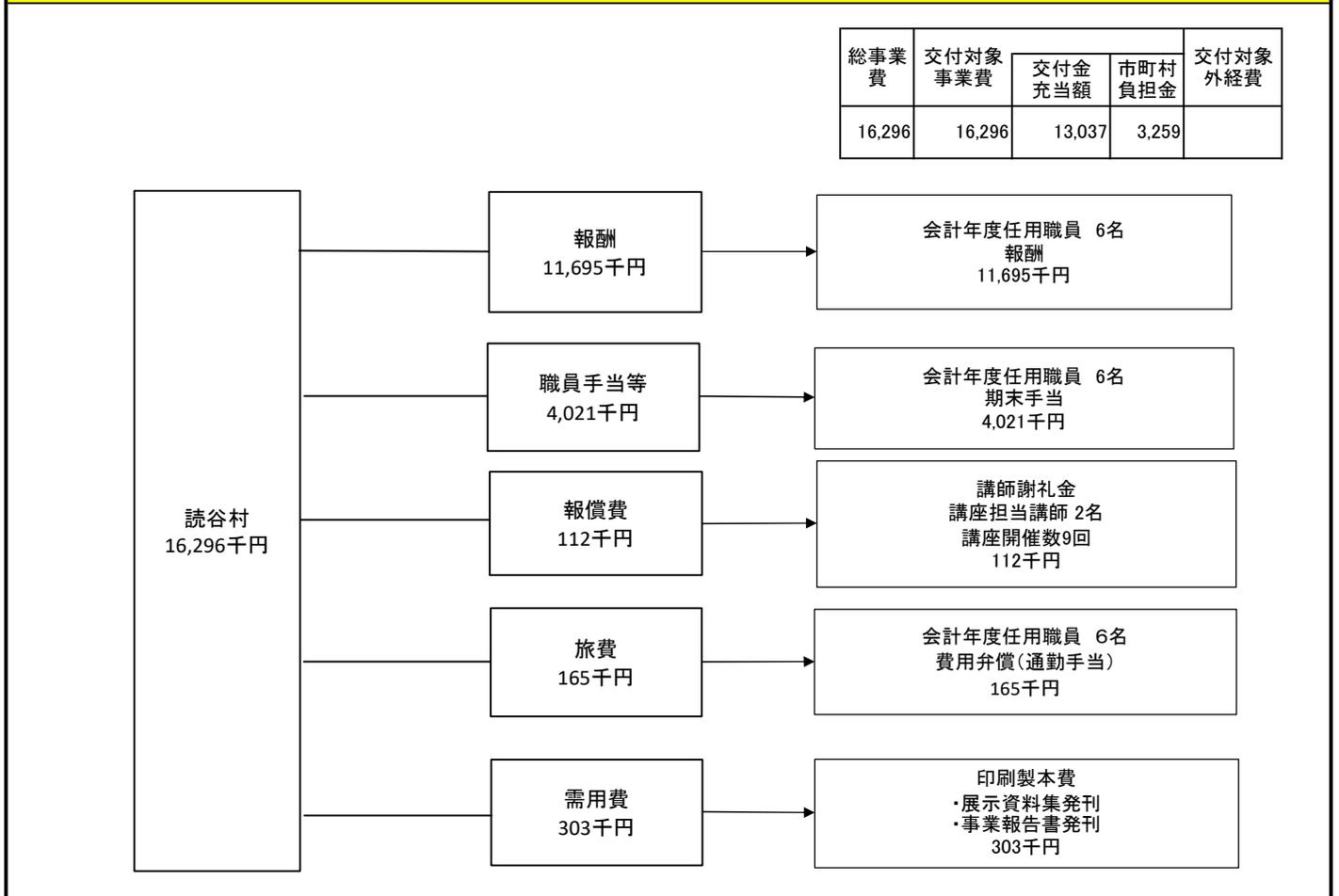
今後の取り組み方針

(HP(データベース)アクセス数)
・しまくとぅば学習に寄与するためHPコンテンツ「読谷村しまくとぅば単語帳」を発展させた体系的な単語集(辞典)を発刊し、そのPDFデータをHPIにて公開する。

(辞典作成のための原稿執筆・確認)
・辞典本文の執筆、校正のほか、写真・イラストを割り付けしたレイアウトを進めるとともに、索引や付録、読谷村のしまくとぅばの特徴を解説する原稿作成も進め、「(仮称)読谷村しまくとぅば辞典」を発刊し、村内学校、自治会、県内資料保存機関に配布する。

(講座総受講者数および講座満足度)
・引き続き村広報誌やコミュニティ放送を通してしまくとぅばの普及啓発活動を進める。
・村内各団体、学童、保育所、学校等での沖繩語(しまくとぅば)講座を実施する。特に連続講座に複数取り組み、受講者がしまくとぅばに継続的に触れることができる機会を創出する。
・本事業、しまくとぅばの保存継承、普及啓発の目的・意義を広く周知理解を広めるため、講座内容や実績を報告書として発刊する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。 ○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則及び要綱により予算規模を決定しており、適切な規模であった。 ○費目・用途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		読谷村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	歴史資料の整理活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	令和4年度～ 令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及 Ⅲ-3-(3)		
事業内容	沖縄戦を境として、米軍統治を経た沖縄戦後史の実相を理解することができる歴史資料が本村には多く存在する。また本村は、これまで地域史の継承を意図し、多岐にわたる資料を収集、蓄積してきた。沖縄や本村に特徴的な歴史を後世に継承していくため、これら種々の歴史資料や歴史公文書等を順次調査し、整理・保存・公開・普及啓発を行う。						
効果発現年度	■ 当年度 ■ 後年度(令和7年度)						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,011	14,239	17,524		
		(b)予算現額	927	14,379	18,280		
		(c)増減額(b-a)	▲ 84	140	756		
		(d)繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	927	14,379	18,280		
	B. 執行済額		884	14,232	18,238		
	うち交付金充当額		707	11,385	14,590		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		95.4%	99.0%	99.8%		
予算の状況の説明		会計年度任用職員号給の変更により、報酬及び職員手当223千円を減額した。人事院勧告に伴う会計年度任用職員の報酬及び職員手当1,039千円を増額した。入札残額が生じたため委託料60千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	村史収蔵貴重資料のデジタル化及びファイリング (※令和5年度は元読谷村長寄贈資料の整理及びデジタル化、データベース化)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	終戦直後村復興に関わる貴重資料をHPへ追加、公開	目標	()	(公開)	(追加、公開)	()	
		実績		公開	追加、公開		
	収蔵資料の整理、目録化	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	1980年頃からの読谷まつり映像データベース(検索システム)HP公開 (※令和5年度は村広報誌データベースHP公開)	目標	()	(公開)	(公開)	()	
		実績		公開	公開		
令和5年度作成HP運用	目標	()	()	(実施)	()		
	実績			実施			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 戦後公文書、屋良朝苗氏アルバム写真、1970～80年頃民俗調査写真などのデジタル化、ファイリングを実施した。 昨年度作成、公開したHP「戦後復興資料データベース」へデジタル画像及びテキストデータを追加公開した。 村史編集室収蔵資料(図書、公文書、写真等)の整理、登録、目録化を進めた。 令和6年度で50回をむかえた読谷まつりは村内各地域の芸能を披露する場としても機能している。今後の芸能継承などに活用するため、これまで蓄積した映像データを検索可能なデータベースとして公開した。 令和5年度作成、公開HP周知のため、村広報誌にHP概要などを掲載した。本事業周知のため、戦後復興資料を用いて読谷村及び沖縄の戦後史を紹介する企画展示会を実施した。HP作成や展示会など本事業が県内マスコミにより報じられた。 						

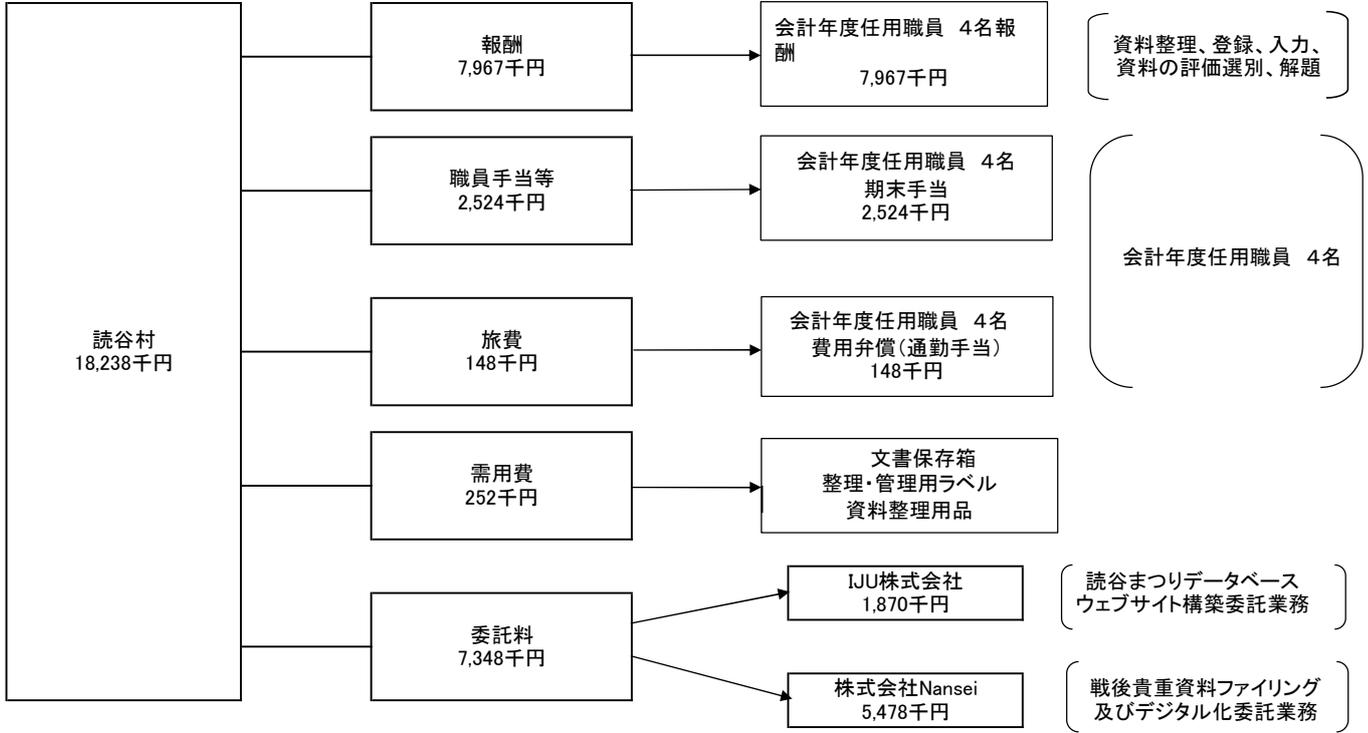
成果目標(指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値	R4年度	R5年度	R6年度	目標値
			(年度)				(R7年度)
成果目標 (指標) 及び進捗状況	村史収蔵貴重資料のデジタル化及びファイリング点数 ・デジタル化写真点数(A) ・デジタル化資料数(B)	目標	()	()	(500件)	(A)約2,700点 (B)約100件 (約16,000枚)	()
		実績			531件	(A)約12,500点 (B)約300件 (約19,700枚)	
	戦後復興資料のHP公開点数	目標	()	()	(100点)	(100点)	()
		実績			101点	103点	
	村史編集室収蔵図書・資料の登録点数	目標	()		(約10,000点)	(約10,000点)	()
		実績			約12,000点	約10,243点	
1980年頃からの読谷まつり映像データベース (検索システム)HP公開点数	目標	()	()	()	(80本)	()	
	実績				105本		
令和5年度作成HP運用 ・読谷村の歴史・文化への理解が深まったとする回答割合80%以上(A) ・HPアクセス数8,500回以上(B)	目標	()		()	(A)85%以上 (B)8,500回以上	(A)85%以上 (B)1万回以上	
	実績				(A)85.0% (B)43,466回		
進捗状況説明	<p>・当初予定を大きく上回る点数のデジタル化、ファイリングを達成した。個人情報の有無など確認し今後の利活用を進める。</p> <p>・戦後復興資料のデータベースサイトに目標資料数を公開した。今後も資料追加を行い、本村の歴史、文化への理解を深めることに寄与する。</p> <p>・村史編集室収蔵資料の登録点数目標値を上回った。今後も継続的に資料登録を行う。</p> <p>・読谷まつりデータベースサイトには映像のほか各回のパンフレット・概要テキスト・写真も公開し検索可能な状態とした。4,886点の写真公開。10月にサイト公開し、令和7年3月末までのサイトアクセス数は18,000回で多くのアクセスを集めている。ウェブでのアンケートによる本村の歴史・文化への理解が深まったとする回答割合100%。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(収蔵貴重資料のデジタル化及びファイリング)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料整理過程で1960～70年代の貴重公文書等やユンタンザミュージアムに収蔵される貴重な民俗調査写真などが発見され、予定を上回るデジタル化及びファイリングを実施することができた。民俗調査等写真はまた相当数あり、今後のデジタル化及びファイリングとともにウェブサイトでの公開準備を進める。 <p>(村史編集室収蔵図書・資料の登録点数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成したものの、寄贈資料の追加、新たに認知された資料などもあり、未整理の収蔵資料がまだ多数あり、優先順位を検討のうえ整理を進める必要がある。 <p>(読谷村の歴史、文化への理解が深まったとする回答割合、HPアクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度公開の広報誌データベース、令和6年度公開の読谷まつりデータベースへのアクセス数が多い。今後も閲覧需要が見込まれる資料の公開を進める。 	<p>(収蔵貴重資料のデジタル化及びファイリング)</p> <p>(村史編集室収蔵図書・資料の登録点数)</p> <p>(読谷村の歴史、文化への理解が深まったとする回答割合、HPアクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年10月より読谷村総合情報センター内にて村史編集室の運営を開始する。同センターを拠点とし、これまで収集、整理してきた歴史資料の利活用を進め、歴史・文化の周知を行う。 本村の歴史・文化に親しみ、地域への愛着を醸成するため、本事業で整理された歴史資料及びデジタル化した資料や構築したデータベースを展示などにより周知し、それらを解説する講座にも注力する必要がある。また総合学習や地域教育に取り組む学校教育現場との連携も視野に入れ事業を展開していく。
今後の取り組み方針		
<p>(収蔵貴重資料のデジタル化及びファイリング)</p> <p>沖縄戦後史に関する貴重資料の寄贈などもあり、それら貴重資料のデジタル化及びファイリングとともにその重要性についても周知していく。</p> <p>(村史編集室収蔵図書・資料の登録点数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度10月に供用開始予定の読谷村総合情報センターでの利活用が図れるよう、登録と併せて資料へのラベルの実装を急ぐ必要がある。レファレンスの増加も想定されるので、スムーズな対応ができるような整理、管理、体制構築を進める。 <p>(読谷村の歴史、文化への理解が深まったとする回答割合、HPアクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記で整理、登録した収蔵資料の検索が可能なデータベースサイトを構築し、レファレンスに供する。 引き続き貴重資料あるいは資料の閲覧需要が見込まれる資料群を検索できるデータベースサイトを構築し、本村の歴史・文化の周知と歴史資料の利活用に取り組む。 		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,238	18,238	14,590	3,648	0



資金の 用途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札方式により決定した。県内実績を勘案し選定しており、妥当であるとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則により採用しており、支出先の選定については妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委託料で入札残が生じたが、仕様を満たしており適切な規模であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○読谷村会計年度任用職員の任用に関する規則及び要綱により予算規模を決定しており、適切な規模であった。 ○費目・用途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。

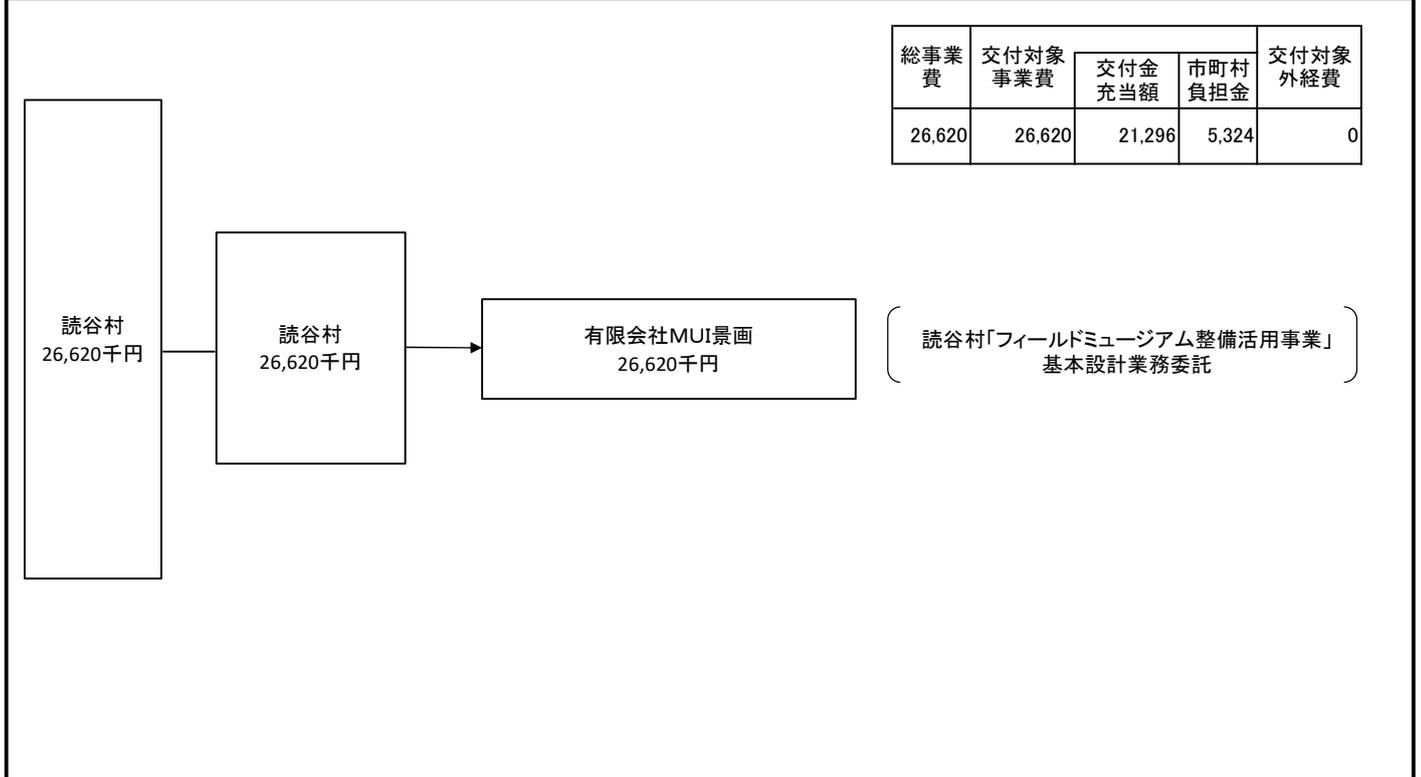
市町村名	読谷村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	フィールドミュージアム整備活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部課名	読谷村教育委員会 文化振興課	事業実施(予定)年度	令和5年度～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(3)		
事業内容	グスク時代開始期の遺跡である大湾アガリヌウガン遺跡と周辺環境を保全し、世界遺産座喜味城跡へと続く沖縄・読谷村の歴史と魅力を発信するフィールドミュージアムとして整備・活用し、教育及び観光資源として活用する。 令和6年度は大湾アガリヌウガン遺跡(令和5年8月村指定文化財に登録)を中心とするフィールドミュージアム整備活用事業の基本設計を作成する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和9年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	112,523	27,500			
		(b)予算現額	112,523	26,620			
		(c)増減額(b-a)	0	▲ 880	0	0	0
		(d)繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	112,523	26,620	0	0	0
	B. 執行済額		112,523	26,620			
	うち交付金充当額		90018	21,296			
	次年度繰越額		0	0		0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		令和5年度:用地購入 令和6年度:基本設計					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	基本設計の実施		目標 (用地購入)	(実施)	()	()	
			実績 用地購入	実施			
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	村全域をフィールドミュージアムとして整備・活用するための基本設計を実施。事業計画通りに執行できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値(R9年度)
	基本設計の完了		目標 ()	(完了)	()	()	()
			実績	完了			
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
進捗状況説明	村全域をフィールドミュージアムとして整備・活用するための基本設計を完了。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	計画通りに基本設計を作成することができた。	令和6年度に作成した基本設計を基に、令和7年度は実施設計を行い、令和8年度以降の整備工事を効率よく進めて行く。整備を早期に完了することで、史跡見学時の利便性の向上となり、修学旅行や観光客の利用促進に繋がりがフィールドミュージアムを構築していく事ができる。

今後の取り組み方針

今後も財源調整を行い整備を進めていく。
 読谷村の文化財めぐりが観光コースとして取り入れられるよう関係機関との協議を行い、整備した施設を効果的に周知するための手段を検討、確立する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の流れ、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○史跡整備等の実績を勘案した事業者を選定し、指名競争入札による落札業者と契約。 ○仕様書等の内容に見合った適正な金額である。 ○費用・使途は基本設計業務を作成するにあたり真に必要なものである。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	読谷まつり活性化事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部課名	総務部 総務課	事業実施 (予定)年度	平成26年度・ 令和6年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	観光誘客及び地域の伝統芸能・文化の継承・創造・発展を図るため、第50回読谷まつりの開催を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,000				
		(b)予算現額	8,314				
		(c)増減額(b-a)	▲ 11,686	0	0	0	0
		(d)繰越額	0				0
		A. 計(b+d)	8,314	0	0	0	0
		B. 執行済額	8,314				
		うち交付金充当額	6,651				
		次年度繰越額					0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	国政選挙と日程が重なり、まつり直前まで開催可否を検討したことから当初予定した広報事業の取りやめ等により実績残が生じたため、補助金11,686千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	読谷まつり開催の支援	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	読谷まつり実行委員会へ補助金を交付し、読谷まつり開催の支援をした。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値 (年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 (年度)
	まつり来場者数	目標	()	(93,500人)	()	()	()
		実績		89,849人			
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	第50回の記念まつりとして、10月25日(金)、26日(土)、27日(日)の3日間開催した。来場者目標人数を93,500人と設定し、実績が89,849人となった。金曜日と土曜日のまつりスタート前、日曜日の夕方まつり開催中に大雨が降ったことで客足が遠のいたと考えられる。						

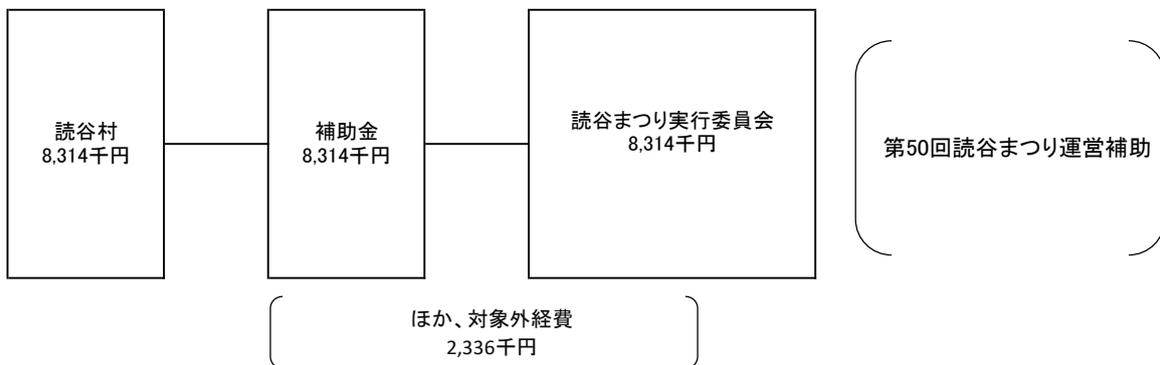
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・目標来場者数に届かなかった要因は、まつりスタート前、そして開催中に大雨の影響を受けたことだと考えられる。 ・また、10月は県内各地でイベントがあり、今回は県産業まつりや他市村まつりと重なったことも影響していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に天候不良への対策として、開催日を1週間前倒した経緯がある。今回は天候不良の影響を受けたが、例年は天気の良い日が多いため、現時点では開催日の変更を検討していない。 ・他イベントと日程が重なることについては、まつりの出演団体・関係団体が多岐にわたることからすぐに日程変更することができないため、今後の検討課題として関係者と意見交換をする。 ・来場者へのアンケートで、読谷まつりの評価5段階のうち平均評点3.8点と概ね好評だったことから、今後も読谷まつりの独自性をPRし誘客に取り組んでいく。

今後の取り組み方針

次年度以降も、地域に根差した伝統文化の継承・創造・発展を目的に、読谷まつりを継続して開催していく。読谷まつりは村民総参加による手づくりの特色あるまつりであり、それが他市町村のまつりにも引けを取らない魅力となっている。今後もその魅力をさらに高め、広く村内外へ発信できるよう村内各種団体協働して取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
10,651	8,314	6,651	1,663	2,336



資金の 使途の 流れ、 検 査 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○行政、村内各種団体で構成する読谷まつり実行委員会への補助金交付は妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○国政選挙と重なったことで実施を取りやめた事業はあったものの、概ね当初計画どおり事業を執行しており、予算規模は適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である実行委員会は、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途は事業目的を達成するために必要なものであったと判断している。

市町村名		読谷村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	読谷村工芸品県外プロモーション戦略事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-エ		
担当部課名	ゆたさむら推進部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統工芸の振興		
事業内容	1978年に策定した「ヤチムンの邑(むら)」基本構想により、村づくりにおいてヤチムン(琉球陶器)の振興を推進してきた。今後のヤチムンの持続的発展を目指し、県外マーケットにおいてマーケティングやプロモーションを行うとともに、販路拡大や人材育成に取り組んでいく。また、併せて村内工芸品である読谷山花織・琉球ガラスの販路拡大を図っていく。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,989	4,733	4,069	3,845	6,130
			2,949	2,772	3,278	3,503	6,107
			▲2,040	▲1,961	▲791	▲342	▲23
			2,949	2,772	3,278	3,503	6,107
	B. 執行済額 うち交付金充当額		2,131	2,772	3,072	3,089	5,260
			1,682	2,218	2,457	2,471	4,208
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		72.3%	100.0%	93.7%	88.2%	86.1%
	予算の状況の説明	当初読谷村の伝統工芸品を国外へプロモーション予定であったが、県との調整や国内商品を国外に販路開拓するためのセミナー状況の結果、これらを加味し今年度は実施せず、次年度以降に検討する方針としたため78千円の減額となった。 ・未執行額の主な内訳については印刷製本費によるもの。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)	達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	県外プロモーション出展・調整及びテストマーケティング	目標	(3回)	(2回)	(2回)	(3回)	
		実績	3回	2回	3回	3回	
	観光客向け県内プロモーション	目標	(3回)	(4回)	(4回)	(2回)	
		実績	1回	3回	3回	2回	
	周知用媒体ツール(琉球ガラス・ヤチムン冊子、パンフレット)の作成	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
実績		実施	実施	実施	実施		
国外PRIに向けた調査	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・県外プロモーションを3回実施。物産展(名古屋 中日ビル)、マーケティング(東京高円寺 セレクトショップcotogoto)、展示商談会(第99回東京インターナショナル・ギフトショー) ・観光客向け県内プロモーションとして、11月に「第19回 読谷やちむんと工芸市」2月に「第32回 読谷やちむん市」を実施 ・やちむんの冊子、やちむん及び琉球ガラスのパンフレットを継続して増刷を実施。今年から多言語版の作成を実施し、プロモーションで役立った。 ・国外PRIに向けた県との会議や海外向けPR商品のセミナーなどに参加 						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	陶器市の来場者数	目標	()	(14,776人)		()	()
		実績		開催中止			
	物産展売上金額	目標	()	(72,750円)	(109,175円)	(741,878円)	()
		実績		85,160円	171,563円	887,327円	
	展示会(見本市)商談数	目標	()	(25件)	(10件)	(25件)	()
		実績		展示会中止	23件	45件	
やちむん市アンケートで県外初来場者数	目標	()	()	()	(120人)	()	
	実績				242人		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋の中日ビルで開催した、物産展の売上は210,210円を上げることが出来た。 ・東京のセレクトショップ(cotogoto)での売り上げに関しては、688,117円を上げることができ、昨年度実績よりプラス261,019円売り上げることが出来た。 ・東京インターナショナルギフトショーでの展示商談会では45社との商談を行うことができた。 						

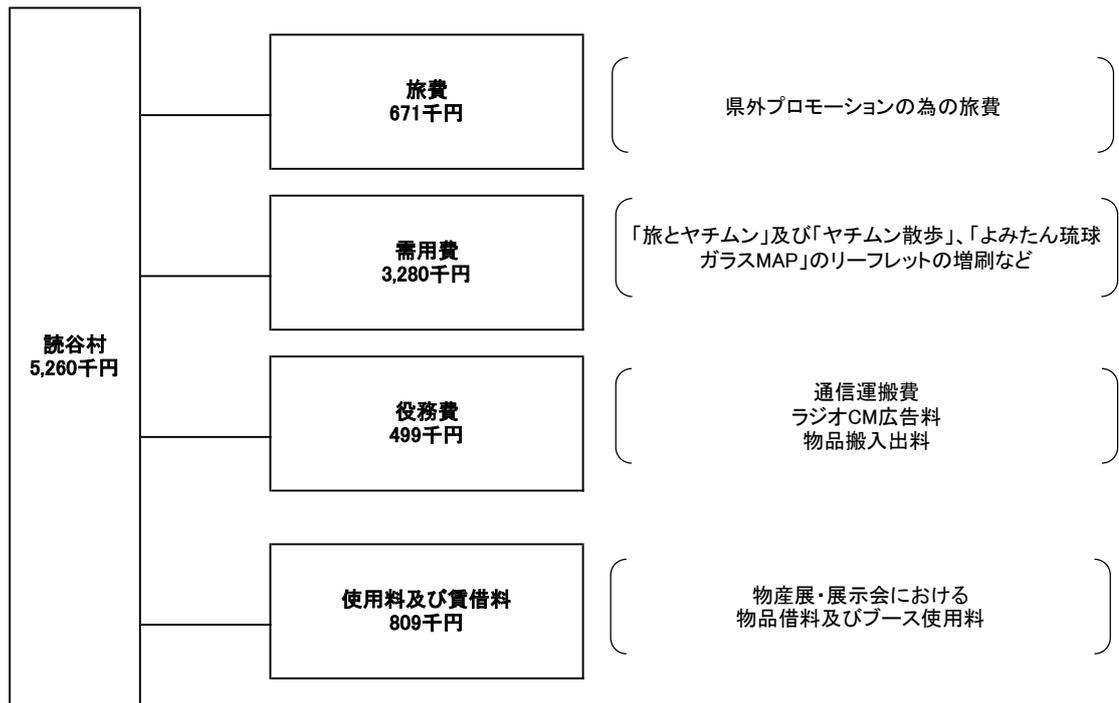
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(県外プロモーション活動) 県外プロモーション活動を3回実施することが出来た。東京のセレクトショップに関しては、去年度よりイベント実施日が少ないにも関わらず高売り上げとなった。 また、読谷村の伝統工芸品の認知度やプロモーションをきっかけに、観光として来られる方も確認することができた。	(県外プロモーション活動) 商談を通して伝統工芸品のニーズの高さを感じた。工芸工房が供給することが出来ないケースも増えているため、今後はテストマーケティングや物産展など認知度の向上を図りながら伝統工芸品から観光へ繋げる取組みを行っていく。

今後の取り組み方針

今後商談会を実施する方向ではなく認知度の向上にシフトしていく。大阪万博の開催に伴い国内外からの観光客の増加が望める為、次年度は大阪でのプロモーション活動を計画している。
また、主要都市である東京、神奈川、福岡、名古屋でのPRに力をいれ、多くの方にも知ってもらう機会を増やす事で認知度の向上を図り、購入や読谷村の観光誘致へと繋げていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,260	5,260	4,208	1,052	0



資金の流 れ、 点 検 評 価 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は妥当であると考えている。 ○予算規模及び事業内容は、適正だったと考える。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものであるかについて、支出先に関する書類により確認しているため適正であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	読谷補助飛行場跡地「大木地区」崖地対策事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-7	
担当部課名	建設整備部 都市計画課	事業実施(予定)年度	令和1年度～令和7年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 III-8	
事業内容	読谷補助飛行場跡地(大木地区)の土地利活用を促進するため、区画整理地と境界が隣接する崖地法面の整備のための実施設計を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,000	145,000		200,000	8,646
		(b)予算現額	12,924	163,000		240,889	3,300
		(c)増減額(b-a)	▲ 76	18,000		40,889	▲ 5,346
		(d)繰越額			88,230		0
		A. 計(b+d)	12,924	163,000	88,230	240,889	3,300
		B. 執行済額	12,924	74,770	86,437	238,763	3,300
		うち交付金充当額	10,339	59,816	69,149	191,011	2,640
		次年度繰越額	0	88,230	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	45.9%	98.0%	99.1%	100.0%
	予算の状況の説明	崖地対策工事が必要ない箇所があり数量を調整した。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	崖地対策実施設計の実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	崖地対策工事の実施設計を委託した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値(年度)
	区画整理地の開発可能区域増 約1,781㎡	目標	()	(実施)	()	()	()
		実績		実施			
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	令和7年度に工事を発注し目標達成に向けて事業を実施予定						

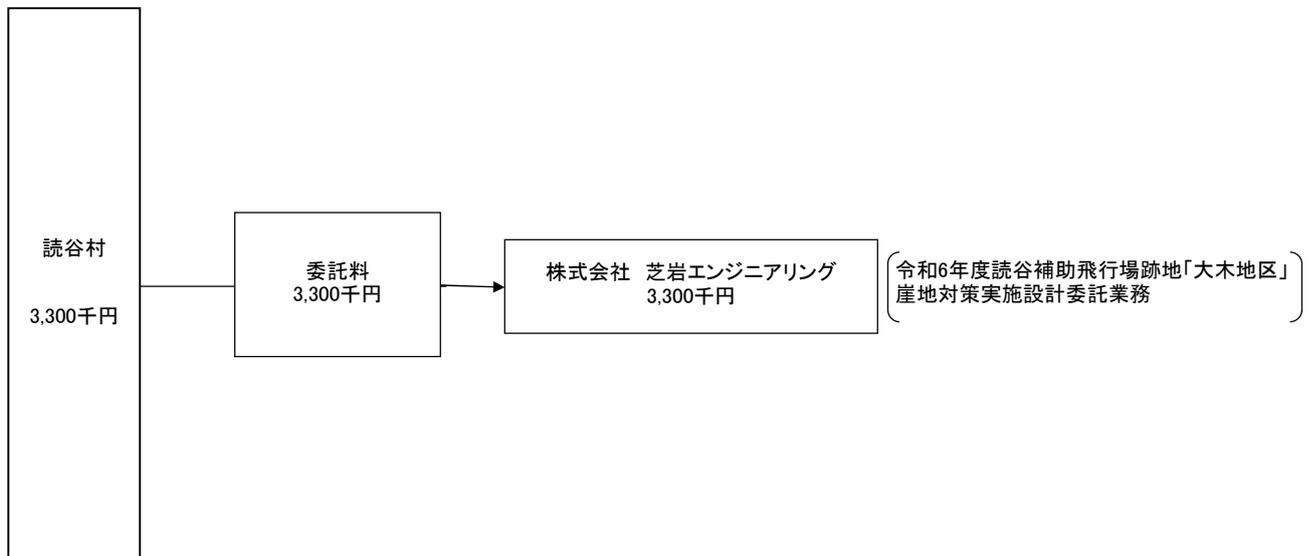
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	読谷補助飛行場跡地(大木地区)は、崖地と区画整理地の境界が隣接しており、住宅予定地が危険な状況にあったため、崖地対策工事の設計を行うことで安全を確保する工事の準備をすることが出来た。	大木土地区画整理組合の事業進捗状況にあわせ適切に維持管理を行う。

今後の取り組み方針

今後も引き続き大木土地区画整理事業に取り組み、読谷補助飛行場跡地「大木地区」の土地利用を促進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,300	3,300	2,640	660	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は、指名競争入札しており妥当であったと考える ○予算規模は適正な規模であるとする ○費用・用途については事業目的の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	読谷村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	かんしょ生産振興事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア	
担当部署名	営農知産地笑推進課	事業実施(予定)年度	令和5年度～令和7年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の特性を生かした効果的な跡地利用の推進 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	読谷村の特産品である「紅イモ」において、サツマイモ基腐病の流行による離農や他農作物への転作により生産量が減少している。また、小規模農家が多く手作業での整地・収穫を行うため、効率的な生産や新規就農がしづらい状況にある。本事業により、農業用機械を整備し、効率的な生産体制の確立を図り、安定した出荷体制の構築、生産農家の作付面積拡大・所得向上を目指す。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和8年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	8,349	5,349			
		(b)予算現額	6,072	4,573			
		(c)増減額(b-a)	▲ 2,277	▲ 776	0	0	0
		(d)繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	6,072	4,573	0	0	0
	B. 執行済額		6,072	4,573			
	うち交付金充当額		4,857	3,659			
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		令和6年度は、いも類収穫機及び高圧蒸気滅菌器の整備を計画通りに行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	農業用機械の購入整備(いも類収穫機)	目標	()	()	()	()	
		実績	農業用機械の購入整備	農業用機械の購入整備			
	農業用機械の購入整備(高圧蒸気滅菌器)	目標	()	()	()	()	
実績			農業用機械の購入整備				
達成状況説明	かんしょ生産振興において、労働力軽減、担い手確保に資する農業用機械の導入を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(R5年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R8年度)
	農業用機械の購入整備(いも類収穫機)	目標	()	(整備完了)	(整備完了)	()	()
		実績		整備完了	整備完了		
	農業用機械の購入整備(高圧蒸気滅菌器)	目標	()	(整備完了)	(整備完了)	()	()
		実績		整備完了	整備完了		
	【R8成果目標】 生産農家数5%増(令和5年度比) 作付け面積1ha増(令和5年度比)	目標	(5%増 1ha増)	()	()	()	(5%増 1ha増)
実績							
進捗状況説明	予定していた機械購入を完了し、年度目標を達成した。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(農業用機械の購入整備) いも類収穫機及び高圧蒸気滅菌器を購入し、紅いも生産振興の環境整備に繋がった。	(農業用機械の購入整備) 引続き、かんしょ生産に係る農業用機械の整備を進める。
	今後の取り組み方針	
(農業用機械の購入整備) ・生産振興に寄与する機械購入の利活用について周知を強化し、利活用拡充に努める。利用拡充により、今後の生産農家の労働力軽減、生産量増、品質向上に向け取り組む。令和7年度は、かんしょ生産に係る農業用機械の運搬車両を整備する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> <tr> <td>4,573</td> <td>4,573</td> <td>3,659</td> <td>914</td> <td>0</td> </tr> </table>			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,573	4,573	3,659	914	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,573	4,573	3,659	914	0										
<pre> graph LR A[読谷村 4,573千円] --> B[備品購入費 (2件) 4,573千円] B --> C[株式会社南九州沖縄クボタ 3,750千円] B --> D[株式会社 池田理化 沖縄営業所 823千円] C --- E[令和6年度 かんしょ生産振興事業 (ハーベスター一式)購入] D --- F[令和6年度 かんしょ生産振興事業 (高圧蒸気滅菌器)購入] </pre>														

資金の用途の流、点検、費用評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は、指名競争入札により選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模及び事業内容は、適切だったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか、額の確定時において、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	